

# 2020(令和2)年度事業計画書

当協会は1992年の設立以来、遠赤外域の放射伝熱を利用した遠赤外線関連産業の振興や遠赤外線製品の認定事業を通じて消費者保護活動を推進してまいりました。以降、関連JIS規格「JIS Z 8117、R 1801、R 1803」の策定やJIS法に基づいた「遠赤外線製品自主認定制度」をスタートさせました。また、遠赤外線関連産業の加熱技術や測定法、製品開発、省エネ検証など様々な分野の調査研究事業を実施しその技術蓄積を図りました。お陰様で、赤外線利用技術は、農業・工業分野や調理器分野の加熱・乾燥をはじめ、家庭、オフィス、工場、体育館などの大空間・放射空間冷暖房や、サウナ、岩盤浴、装身具などの美容・健康分野、肌着、靴下、サポーターなどの繊維・衣料分野など幅広い分野に利用されています。昨年度まで2年間の活動キーワード「遠赤外線 暮らしを変える、未来を変える」を見直し、2020年度より「遠赤外線 利用で生まれる 持続可能な社会」といたしました。新たなキーワードのもと、会員の皆様と共に活動を推進してゆく所存です。また、それぞれの取組みについては、皆様のご意見・ご要望を伺いながらご理解と協力のもと、関係省庁や関連団体の賛同もいただき、着実に進めてまいります。

## 1. 遠赤外線関連製品・技術に関する調査及び研究（定款第4条第1号関係）

### 1) 常温域放射機構及び遠赤外加熱・乾燥に関する調査研究

各専門分野別の取組みを目指しながらも、2019年度から加熱小員会と保温繊維小委員の合同委員会として、分野毎に関連製品や技術の調査研究活動を進めています。

- ・常温域保温分野は、機械システム振興協会の受託事業で開発した新放射測定法の利用を検討します。同時に保温繊維市場調査の内容を分析し、遠赤外線繊維製品の認知度アップ提案を検討します。
- ・加熱・乾燥分野は、昨年まで遠赤外線利用技術・製品情報の情報を収集してきました。2020年度は加熱・乾燥分野に加え常温域の保温繊維分野も合わせ、技術や製品情報をアップデートし更新した内容を一部公開してまいります。

### 2) JIS規格の見直しに関する調査研究

2020年は、当協会が中心になり制定したJIS R1803「遠赤外ヒータの遠赤外域における分光放射エネルギーの測定方法」の見直し時期となります。日本規格協会から打診が来た場合は、有識者や関連協会と連携し対応してまいります。

## 2. 遠赤外線関連製品・技術に関する情報の収集及び提供（定款第4条第2号関係）

### 1) 基盤的情報の収集及び提供

2020（令和2）年度定時総会が新型コロナウイルス感染防止の関係で中止となり、予定された外部講演と2019年度受託報告は中止となりました。次の機会に企画します。

また、2020年度も会員への発信手段であるホームページや会報を通じ、各種講演会／

講演研修会などの赤外線技術関連情報をタイムリーに提供します。

一般の方々にはホームページを活用し、協会情報や製品の技術を分かり易く解説したコーナーや新会員や認定品紹介コーナーなど協会活動の見える化により、遠赤外線利用に関する正しい知識の啓発と関連製品の認知度向上に繋がるように取組んでまいります。

## **2) 世界省エネルギー等ビジネス推進協議会（JASE-W）**

国際展開技術集の作成を通し、遠赤外線応用製品やシステムの特長や効用を世界に発信してきました。2020年度も継続して掲載内容や利用分野のアップデートを検討します。また、定期的に開催される連絡会に出席し、省エネ事業のグローバル動向や官民上げた海外支援情報を会員の皆様に提供してまいります。（JASE-W ニュースの情報展開）

## **3) 「会報」の編集、発行**

従来、会報は年2回の発行ですが、今年度は定時総会やその後の講演・懇親会と中止となり加えて委員会活動も中止・延期となった事から新年号1回の発行のみと致します。その代わりに都度、「会員へのお知らせメール」や「ホームページ最新情報」に掲載してタイムリーな提供に努めます。新年号会報は、協会会長や経済産業省の「年頭挨拶」や「産業クリッピング」、「赤外線関連の特許調査（公開・公告）」、「私のこだわり」、「新入会員紹介」など会員メリットを重視した会報編集に進めてまいります。

## **4) 遠赤外線に関する各種相談**

毎年の一般消費者（個人）や国内外の企業からの相談件数は、電話も含めると100件／年間を超えています。問い合わせの回答については会員メリットを損なわないよう情報管理を行いつつ、遠赤外線関連産業の育成や遠赤外線知識啓蒙・啓発の一環として丁寧な対応を進めてまいります。また、近年はビジネスマッチングや異業種からの相談も増えているため、専門の委員会や技術顧問と相談しながら対応してまいります。

## **5) 経済産業省関連情報等の会員への配信**

以前より経済産業省の素材産業課には、協会状況や課題を定期的に報告しています。また、メールでの周知事項や意見交換情報は、会員に共有すべくタイムリーに発信します。同様に、他の関連団体からの提供情報や各種新聞記事やネット情報のうち、当協会会員に有益な内容は、随時「会員へのお知らせメール」などで情報発信します。

## **3. 遠赤外線関連製品・技術に関する普及及び啓発（定款第4条第3号関係）**

### **1) 認定マーク・認定基準の普及促進と適用商品の拡大**

認定審査委員会（加熱分野、繊維分野）を開催し、新規案件の審査を行います。協会では認定制度・認定マークを消費者や関連企業の方々に認知いただくために、認定に関する相談企業の対応や認定研修会を行うとともに、ホームページの認定品紹介のアップ

データを図ります。

また、広告記事やメディア(w e b)を調査し、該当製品に認定マークが付いていない場合、認定マーク付与申請（認定取得も含め）を依頼するなど、関連市場での認定マークの認知度向上と認定制度の利用を推進してまいります。

## **2) 遠赤外線技術／認定研修会**

2019年度は、9月5日に協会会議室で18名の参加者を対象に第39回技術研修会と第4回認定研修会を同時開催し、参加の方々より好評を頂きました。2020年度の技術研修会や認定研修会は、一定の参加数が見込めるテーマが見つければ開催を検討します。

## **3) マスコミに対する協力及び小冊子の配布**

2020年度も、新聞社、雑誌社などマスコミの遠赤外線に関する取材、特集の企画に協力し、遠赤外線の正しい理解と認定制度・認定マークの普及促進に努めます。2010年作成した小冊子の在庫（2020年3月時点：残150冊）が有り、会長の挨拶回りや協会来訪者・他団体イベントで協会活動の説明として随時配布しています。

## **4) 展示会やシンポジウムへの出展**

基本的に自ら他団体のイベントには出展しませんが、イベントの協賛や当協会ブース出展の依頼があった場合は、運営委員会で内容を確認し協賛の判断を行います。

## **5) 協会文書のデジタルアーカイブ化と一部公開**

協会活動で作成した資料、他団体から入手した文書・講演資料、協会が受託した資料などを重要度に応じ、協会文書としてアーカイブ化します。2020年度は、従来までの関連技術動向や製品をアップデートし、デジタルアーカイブ化し一部公開します。

## **6) 遠赤外線技術と会員メリットPR活動**

遠赤外線技術を利用した加熱・乾燥機器や保温繊維製品分野の産業振興を図るため、会員以外の関連企業にも利用いただくことが重要です。技術シンポジウムや研修会、問い合わせ相談などを通し、遠赤外線技術の安全性や脱炭素化につながる省エネの有効性と会員になるメリットをPRしてまいります。

## **7) 一般の方々への情報公開・ホームページの充実**

2020年度も引き続き、会員にも外部の一般消費者や企業にも分かり易いホームページを目指します。従来「最新情報コーナー」や「遠赤外線とは?」、「FQA：良くある質問コーナー」、「会員の事業紹介」以外に、「遠赤外線技術データベースの一部公開」、「新会員紹介コーナー」、「認定商品紹介コーナー」など協会活動の見える化を推進しましたが、2020年度も引き続き取組んでまいります。

## **8) 遠赤外線協会製品・技術振興表彰及び永年継続会員表彰の実施**

2020 年度も会員より推薦いただいた受賞候補を選考委員会で審査しました。優秀製品・技術賞、研究開発賞、功労賞の公募を実施し、表彰選考委員会で審査の上、2020 年度の優秀製品・技術賞が決定しました。新型コロナウイルス感染防止の関係で第 28 回定時総会が中止の為、別途表彰します。また、永年継続会員は対象がありませんでした。

## **4. 赤外線関連製品・技術に関する内外関係機関などとの交流及び協力（定款第 4 条第 4 号関係）**

### **1) 国内関係機関との交流及び協力**

経済産業省素材産業課や関連セラミックス 3 団体（（一社）日本ファインセラミックス協会、（一財）ファインセラミックスセンター、（一財）日本セラミックス協会との連携や（一社）エレクトロヒートセンター（電力系、元電熱協会）と遠赤外線加熱技術を通じた交流を継続します。また、三重県工業研究所窯業研究室、（地独）神奈川県立産業技術総合研究所、（一財）ニッセンケン品質評価センター、（一財）カケンテストセンター、（一財）ボーケン品質評価機構などの遠赤外線測定機関や化学繊維メーカー、国民生活センターなどと交流を継続します。また、機械システム振興協会などの受託応募や省エネルギーセンター（JASE-W 連絡会）への参加を通じて交流してまいります。

### **2) 海外関係団体との交流**

欧州、アジアなど海外関係機関との交流を推進し、協力要請があればその対応を検討します。タイ マヒドン大学のサックダビバニッチ教授とは、現地企業の遠赤外線加熱技術支援に関する会員への支援や技術問合せなどの交流を継続します。また、海外の大学や企業から来る測定法や評価法などの問合せに対し、丁寧な対応を行ってまいります。それ以外の海外関係団体から入る依頼や有効な情報は、各専門の委員会に報告し、必要に応じて会員に情報提供してまいります。

## 2020（令和2）年度事業計画書（ダイジェスト版）

### [ I ] 事業の概要

1. 遠赤外線関連製品・技術に関する調査及び研究（定款第4条第1号関係）
  - 1) 常温域放射機構及び遠赤外加熱利用に関する調査研究：2つの小委員会合同による活動
    - ・新放射測定法の利用や基準化、市場調査内容を分析し関連製品の普及策を検討
    - ・加熱分野と保温繊維分野も合わせ技術や製品情報をアップデートし公開予定
  - 2) JIS規格の見直しに関する調査研究：JIS R1801/Z8117 や JIS R1803 の改定の対応
  
2. 遠赤外線関連製品・技術に関する情報の収集及び提供（定款第4条第2号関係）
  - 1) 基盤的情報の収集及び提供：2020年度定時総会の講演（技術講演と受託事業報告）
    - ・関連技術や新製品、特許情報を収集しホームページや会報を利用し内外へ情報発信
  - 2) 世界省エネルギー等ビジネス推進協議会：国際展開技術集改定とグローバル情報の提供
  - 3) 「会報」の編集発行1回/年：年頭所感や最新の産業・特許情報、研修会講演内容の掲載
  - 4) 遠赤外線に関する各種相談：一般消費者や関連企業などからの質問・相談事項の対応
  - 5) 経済産業省関連情報などの会員配信：経済産業省との交流と会員への有益情報の提供
  
3. 遠赤外線関連製品・技術に関する普及及び啓発（定款第4条第3号関係）
  - 1) 認定マーク・認定基準の普及促進と適用商品の拡大：新規認定申請の申込確認と対応  
ホームページや研修会での認定制度啓発と認知度向上活動
  - 2) 遠赤外線技術／認定研修会：技術研修：9月に技術研修会と認定研修会を同時開催予定
  - 3) マスコミに対する協力及び小冊子の配布：メディア取材に協力。2紙に協会記事の提供
  - 4) 展示会・シンポジウム出展：友好団体からの依頼時、出展（時期・収支）内容を要検討
  - 5) 協会文書のデジタルアーカイブと公開：業界の調査情報や関連技術・製品動向のアップデート情報のアーカイブ化し一部公開
  - 6) 遠赤外線技術と会員メリット活動：加熱や保温繊維分野利用拡大と会員メリットをPR
  - 7) 一般の方々への情報公開・ホームページの充実：ホームページによる協会活動の見える化  
技術・製品データベース公開や認定品コーナーの更新と充実
  - 8) 遠赤外線協会製品・技術振興表彰及び永年継続会員表彰の実施：会員企業・対象者選定
  
4. 赤外線関連製品・技術に関する内外関係機関等との交流及び協力（定款第4条第4号関係）
  - 1) 国内関係機関との交流及び協力：経済産業省や関連業界団体との意見交換と産学官連携
  - 2) 海外関係団体との交流：海外関係団体との交流や研究機関の問い合わせ対応を継続